

THE 26th ANNUAL MEETING OF THE JAPANESE BREAST CANCER SOCIETY

第26回日本乳癌学会学術総会

「Creative Japan 新たな時代」



ランチオンセミナー 11

・ランチオンセミナーは整理券制です。

抗癌剤脱毛を予防する！ - Bench から Home へ -

日時 2018年5月17日(木) 12:20~13:10

会場 国立京都国際会館 第2会場 (アネックスホール1)

座長

筑波大学 医学医療系 乳腺甲状腺内分泌外科 准教授

坂東 裕子先生

演者

大分大学医学部 消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史先生





演者

大分大学医学部
消化器・小児外科学講座 教授

猪股 雅史 先生

▶ 抗癌剤脱毛を予防する！ — BenchからHomeへ —

猪股雅史¹⁾、佐川倫子¹⁾、平塚孝宏¹⁾、河野洋平¹⁾、後藤瑞生²⁾、波多野豊²⁾、濱中良志³⁾、北野正剛⁴⁾

1)大分大学 医学部 消化器・小児外科学講座 2)大分大学 医学部 皮膚科学講座
3)大分県立看護科学大学)4)大分大学

【はじめに】がん患者の増加に伴い抗癌剤治療を受ける患者が増えている。脱毛は心的ダメージの大きな副作用があるにもかかわらずその有効な治療法は未だ存在しない。今回、この臨床の問題点に対して、基礎研究(Bench)⇒臨床研究(Clinic)⇒産学連携研究(Home)によって、抗癌剤治療後の脱毛に対する予防剤の開発が実現した。

【Bench; 脱毛予防剤の基礎研究】ラット抗癌剤誘発脱毛モデルを用い、ラットの背部皮膚にαリポ酸誘導体含有軟膏を塗布し、脱毛の程度、皮膚組織の病理解析を行った。1%塗布群で、著明な脱毛抑制効果を認め、病理組織像にて毛根・毛幹の破壊の軽減、炎症細胞浸潤所見の減少を認めた。アポトーシスの指標であるカスパーゼ活性は、対照群と比べ低値であった。

【Clinic: 乳癌患者を対象とした臨床研究】乳癌患者を対象として、術後抗癌剤投与期間中にαリポ酸誘導体1%含有ローションの塗布を行った。その結果、脱毛随伴症状(痛み、掻痒)の発生頻度が減少し、脱毛が著明に抑制された症例も認めた。また3-4回/日塗布群は1回/日塗布群と比較しその効果が高かった。2014年より乳癌患者の術後補助化学療法による脱毛への効果を評価する目的で、多施設共同臨床試験(αCIA trial)を行った。2015年5月に100例の目標登録数に到達した。化学療法終了後1年の追跡期間後に最終解析を行ない、化学療法終了後3か月目の時点で、80%以上の患者において毛髪回復を認めた。

【Home: 産学連携による製剤開発】臨床研究の結果を基に、毛髪のリーディングカンパニーとの産学連携共同研究を経て、有効性の向上、副作用の軽減、製剤の使用感、価格を含めたコンプライアンスなどの課題が解決されてきた。日常臨床で利用できる抗癌剤脱毛の予防剤の製品化によって、医療福祉への貢献が期待される。

略 歴

1988年3月 大分医科大学医学部卒業
 1988年6月 大分医科大学医学部附属病院外科第一(研修医)
 1990年4月 国立病院九州がんセンター 乳腺部
 1994年5月 国立がんセンター研究所 病理部
 (対がん10カ年総合戦略・リサーチレジデント)
 1997年3月 大分医科大学 大学院 修了 博士(医学)取得
 2003年4月 大分大学医学部総合外科学第一 講師
 2010年4月 大分大学医学部総合外科学第一 准教授
 (消化器外科 副診療科長)
 2011年9月 米国コーネル医科大学 大腸外科 (NY)
 Visiting fellow(厚生労働科学研究海外派遣事業)
 2014年10月 大分大学医学部消化器・小児外科学講座 教授

【主な学会・資格】

日本内視鏡外科学会:技術認定取得医・評議員・理事
 日本外科学会:指導医・専門医・代議員
 日本消化器外科学会:指導医・専門医・評議員・理事
 日本臨床外科学会:評議員・大分県支部事務局
 日本創傷治癒学会:評議員
 ASCO(American Society of Clinical Oncology):Active member
 ESMO(European Society of Medical Oncology):Active member

【特許取得】

がん化学療法誘発脱毛に対する抗脱毛用組成物
 (特許第5578997号 2010年9月16日)

